

共通テーマ 「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

拠点校Ⅰ

(南会津町立館岩中学校)



実践の具体的な内容

- 既習事項を用いながら英文を正確に書いて伝える力  
→帯活動や授業終末での英文を書く活動の位置付け
- 相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する力  
→目的・場面・状況を明確にした授業づくりによる教師と生徒、生徒同士のコミュニケーション活動の充実
- 学びを振り返り、次時につなげる力  
→CAN-DOリストの活用。小中ともに同じ形式で、各Unitごとに作成

取組による成果

- 書くことに対して苦手意識がなくなり、また、文法や文の語順などを意識して英文作成に取り組みやすくなった。
- 目的・場面・状況を工夫して設定した言語活動を行ったことにより、普段よりも生徒が意欲的に活動に取り組み、会話を継続して行うことができた。
- 学びの見通しが持てるようになり、一つ一つの授業の学びが深まった。
- 生徒自身ができるようになったところを振り返ることで、意欲的に次への学びへ向かうことができた。

拠点校Ⅱ

(南会津町立館岩小学校)



実践の具体的な内容

- お互いに会話を続けようとする力  
→帯活動でのSmall Talkの導入
- 与えられたテーマに対して、自分の意見を伝えようとする力  
→目的・場面・状況設定の工夫と「話す」活動の充実
- 学びを振り返り、次時につなげる力  
→CAN-DOリストの活用。小中ともに同じ形式で、各Unitごとに作成

取組による成果

- 継続的にSmall Talkを取り入れることで、相手意識を持ちながらコミュニケーションを図ることができた。  
また、即興的にやり取りする力もついてきた。
- 「再構築」「中間評価」などの時間を共有することで、自ら思考・判断する力が育まれてきた。
- 間違いを恐れず、やり取りする姿が見られるようになった。
- CAN-DOリストの活用で、児童は「自分の学び・がんばり・できるようになったこと」を毎時間振り返ることができた。教師は、児童の振り返りを受け、次時の授業を組み立てることができた。